

宿縁

八月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

「ありがとう」の
言葉を読み取る



仙台市立荒浜小学校は明治六年(1873)に創立した歴史ある学校ですが、誰にも未だ記憶に新しい2011年3月11日に発生した東日本大震災において、押し寄せる津波が4階建て校舎の2階にまで達し、甚大な被害を受けて廃校となりました。
今、旧荒浜小学校としてその校舎は震災時の被害そのままの姿で遺構として公開し、津波の被害や教訓を後世に伝えていきます。
海岸から700m内陸に位置していた学校の周囲には約800世帯、2200人の人々が暮らす集落がありました。近くには明治5年に学制が敷かれるまで寺子屋として

千葉市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

の役割をしていた浄土寺がありました。海岸線には沿うように歴史ある運河と美しい松林の光景が展開していたといえます。半月ほど前、機会があつてその旧荒浜小学校を独り尋ねたときの感慨無量なる想いは簡単なものではありませんでした。そして消えてしまった集落にぼつんと遺された小学校の外壁には「ありがとう荒浜小学校」と書かれた大きな文字が目に入り、沢山の意味を語りかけていました。それは150年にわたって荒浜集落の人たちに引き継がれてきた学舎の人間形成の歴史と集落の共同体や自然環境に恵まれていたことへの深い敬意の表われではないでしょうか。私たちの日々の生活は、いつしか時に流されてすべてをあたりまえと思つてしまいます。しかしごくあたりまえと気にも留めていなかったものが失われたとき、その背景にあつたものごとにはかり知れない恩恵と尊さを感じるものなのです。だからその生活基盤が他所に用意されたことで、出直したらという簡単な問題解決ではないことを被災地から教えられました。「ありがとう」の言葉には「サンキュウ」の英語では意味しきれない深い思いと精神が込められているのです。昨今、科学的思考と合理性にしか価値を見いだせなくなつてきている生き方の中で人生の「価値」と「意味」について考えて

みたいと思います。
「価値」の「価」は価格すなわち物のねうちを金額で表したものです。「値」も値段ですから、私(人間)が対象者(物)に対して値踏みすることです。それはまた同時に向こうからもされていることです。考えてみると人間生活は勝つか負けるか、優れているか劣っているか、善か悪かのどちらかに価値判断を置くことだといえます。いうならば人間の眼であらゆる物事を対象化して決定、納得しようとする営みといえるのではないのでしょうか。そうした価値判断はあくまでも相場の世界ですから落ちつきがありません。それは今の私自身の考え方、行動にも表れているし世界の動きにも通じるものがあります。国家間の対立、民族間の紛争が広がる現実を目を向けると、本来の相互了解や共存共栄を損ねる元に、すべてを「価値」一つで問う矛盾がもたらしているのではないかと思えます。
一方「意味」とはその事柄を認識し、思考する心のはたらきといつて良いでしょう。「味」とは表面的感覚ではなく、まさに味わうという精神的な深さから出てくる世界だと思えます。それはモノの表層だけを見るのではなく、見えなかった部分、気づかなかった裏面に隠されていたものを読み取る世界です。われわれの知識・感情・意志のあらゆるはたらきを含み、根底にあるものに気づかされること。たとえば人生の老い、病い、死が、誰もが逃れがたきことを自覚し、そこに深い意味を感じ取る大切さを知ることです。それには人間のうつろな眼ではなく仏の眼(真理)を通してこそ表現できる真の「ありが

とう」の意味だと思えます。
たとえ消えていく風光であつてもそこに残る残像の真意を問うことを忘れなければいつかはきつと生きていく意味と力になるはずです。
お念仏に培われたかつての風光の一つに北陸地方から出てきた「置き薬」と「お風呂屋さん」がありました。富山の薬売りは都会の一軒一軒のお宅を訪ねてはその家族に接し、話を交わしながらその家人の容態に合った薬を置いてゆき、一年後に訪問して使用した薬の代金を頂戴するという信頼の上に成り立つ商売のあり方でした。
都会の人たちが利用した銭湯の営業は多く石川県出身の方たちでした。なぜお風呂屋さんの構えはお寺のような立派な破風屋根だったのでしょうか。お寺はいつも分け隔てなく誰でも安息できる場所だという意味を模して、銭湯も同様に身分も年齢も関係なく一緒に裸で共有できるコミュニティの場を提供していたからです。
これらの商売の精神の軸となつたのは国許での生活習慣であつたお仏壇とお経です。お経本の表紙はなぜ赤色なのか。蓮如上人が福井の吉崎にやつと本願寺の拠点を創建された数年後、火災が発生。書院に置き忘れた大切に受け継いだお聖教修行信証の証巻を取り戻そうと師を制して燃え盛る火中に飛び込み、もはやこれまでと吾が腹を搔つ捌いて身中にいれ、命を懸けて守り抜いた門弟本光房了願にまつわる「血染めのお聖教」が、今、私に届けられている尊い血を表現した赤色の経本の意味だと教わつたと福井出身のお同行がしみじみと話して行かれました。

【寺灯雑記】

○台風一過でのファミリーパーティー
7/28

近年にない長梅雨と低温が続き、それに加えて台風の影響で当日午前中までやきもきさせられましたが、午後の開始時間にはすっかりまぶしい夏空が広がる下で第28回中原寺ファミリーパーティーは開催されました。

第1部の聞法会館での演芸は、数少ない女性紙切り芸人の「三遊亭絵馬さん」が登場。見事なハサミ裁きと軽妙なトークで観衆を引きつけながら多彩な切り絵芸を披露、その都度感嘆のどよめきとともに拍手喝さいが起きました。また小さい子どもたちから会場からのお題注文には、Donald Duck、盆踊り、似顔絵等々、たくさんの切り絵をプレゼントしてくれました。

次に登場したのは声帯模写の「丸山おさむさん」。3オクターブの音域と歌唱力、絶妙な話術を交えて年配者には懐かしい終戦後からの歌謡曲から演歌まで歌手のエピソードを聞かせながら充分に楽しませてくれました。因みに丸山おさむさんは、歌まねのジャンルでは初めての文化庁芸術祭優秀賞を受賞されています。

お二人の芸は演芸場出演と変わらぬそのままの姿をお寺で再現していただき、みんなが堪能したことでした。

第2部は雨上がりを待って設置した第2墓地駐車場の会場に移っての懇親会。万国旗や新しく購入したテントが張られた会場では各種模擬店での飲食を楽しみながら子どもたちのゲーム遊びや輪になっての盆踊り、

抽選会に興じながら各世代を超えたコミュニケーションの場が映し出されました。今回は天候に不安を抱えた中での開催にも拘らず130名ほどの参加があり、外からの親子連れの縁者もあってファミリーの輪が少しづつ広がりを見せている感がありました。

急な暑さの下でお手伝いをいただきました皆さまには心からお礼と感謝を申し上げます。

○第八期千葉組連研の最終会場に

8/4
千葉組(北ブロック)の12回に分けて宗教・仏教・真宗の教えや読経、作法等を学ぶ2年間にわたっての連続研修会が、最後のテーマのもと当寺を会場にして開催されました。

この日受講した研修参加者は7カ寺からおよそ30名(当寺から4名)の皆さん。テーマは『みんなが集まるお寺に』サブテーマとして①こういうお寺にしたい②私たちの教団 ③念仏の声を世界や子や孫に、でした。

今回の講師は当寺前任職がつとめ、最初に問題提起として*寺子屋に始まるお寺の存在*消えゆくお寺の危機*寺院の原点であるビハーラ活動についての話を聞きました。それを受けて参加者は4班に分かれてお寺の印象や今後求められる活動などについて意見を述べ合いました。そして各班からの発表があつての後、まとめの話がありました。その内容は、教えを学ぶことはそれを心身の軸として現代の課題に立ち向

う姿勢が大切であること。具体的でわかりやすい言葉と念仏を申す態度に周囲を感化する原点があること。そしてみんなが集まるお寺として、僧侶にまかせる寺院ではなくそれぞれが幅広い工夫された企画と運動に積極的に参加してほしい旨の呼びかけがありました。

【法要・法座・行事案内】

☆孟蘭盆会法要修行

(全戦没者追悼法要併修)

日時：八月十一日(山の日祝日)

午前十時から(正午まで)

- ・おつとめ 讚仏偈、仏説阿弥陀經
- ・讚仏歌 み仏にいだかれて
- ・法話 松岡満優師(富岡市蓮照寺)

今月八月は日本人にとつて過去の重い歴史を教訓として心静かに仏の教えに耳を傾けて過ごすべき大切な時期です。

孟蘭盆經に説かれた教えの意味を味わいつつ、亡き方々の導きを感じて尊い仏縁を深めましょう。猛暑のなか、夏休みの行楽の時期でもありますがどうぞ時間を空けてご参詣ください。

暑い折なので聞法会館で行う予定です。

☆夏休み子ども合宿の参加者募集中

日程：八月二十四日(土)～二十五日(日)

(1泊2日)

- ・参加対象：小学生
- ・参加費：3000円(宿泊費、食事3回、入浴料金、保険等を含む)
- ・募集定員30名
- ・内容：お経の練習、ゲーム大会、仏さま

のお話、バーベキュー、少林寺拳法の型、お抹茶の作法、修了証の授与など。

締め切り：8月20日
(☎またはFAXで)

中学生、高校生、大学生のスタッフが中心にお世話をします。夏休みの思い出にお寺に泊ってみませんか？是非お友だちにも声をかけてご参加ください！

○教行信証を学ぶ(教巻)

八月三十一日(土) 二時

○婦人会法座(讚寿の集い)

九月七日(土) 十一時

○壮年会法座(九月の法語から)

九月七日(土) 三時

○子育てサロン(パンダっ子)

九月九日(月) 十一時～二時

☆秋の彼岸会法要

九月二十三日(秋分の祝日) 一時

○いのちの居場所を考える会

九月二十六日(木) 十時

○教行信証を学ぶ(教巻)

九月二十八日(土) 二時

【八月の掲示板のことば】

念仏は 必ず今 間にあう教え